
とある人外達の奮闘記～ハウエン編～

林田 吾唯子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

とある人外達の奮闘記〜ホウエン編〜

【Nコード】

N6079Y

【作者名】

林田 吾唯子

【あらすじ】

とある人外達の奮闘記のホウエン編です。

シンオウ編はまだまだ序盤なのにやっつまいますいた掛け持ち同時進行！

コレもある程度進んだらジョウト編を書き始めるつもりです。

プロローグ

ぼくはひとではありません

ぼくは ずっと じぶんを おとうさんや おかあさんと おなじ
いきものだと おもっていました

でもぼくがおおきくなるにつれて おとうさんとおかあさんが ぼ
くのことをあまりかわいがらなくなりました

それが なぜだかわかりませんでした

おかあさんは ぼくのからだが ほかのひとよりも とてもあつ
いのだと おしえてくれました

それは ひとのあたたかさとはちがう そうです

あるひ、ぼくがくしゃみをしたときに くちからほのおをはいたと
き おかあさんはびっくりしてぼくをつきとばしました

いたくはなかったけれど、かなしいような びっくりしたようなそ
んなきもちでした

「こころ」がとても いたかったのです

でもなくのがはずかしかったので おかあさんにかげよって いき
ました

「私の息子…バケモノ…嫌…こんなの私の息子じゃない…ッ」

おかあさんは もう いままでのように ぼくを みてはくれなくなりました

ぼくがじゅうさんさいになったころ おとうさんは ぼくを トウ力の森につれていってくれました

「お父さんが帰ってくるまで自由に遊んでいいぞ。木の実はいろいろとあるからおなががすいたら食べるんだぞ」

「うん」

「じゃあ、さようなら」

おとうさんは、かえってこなかった

プロローグ（後書き）

プロローグはアチャモ視点でスタートしました。
シンオウ編の方も飽きずに読んでやって下さい…

A t t u r n i n g p o i n t (前書き)

サブ翻訳「転機」

A t u r n i n g p o i n t

寝ぼけ眼で枝から落ちたことを確認する。
オレ、また落ちたのか。

このトウカの森に暮らし始めてしばらくたった。
まだ一年にも満たないが結構慣れるものだ。
十歳の頃もらったアチャモのケイ助は良い話し相手だし、オレは元々炎タイプだから体温が下がりにくく、病気になることは殆ど無い。
木の実はこちらこちらにあるから食べるものにも困らない。
空気も澄んでいるからむしろこちらの方が快適かもしれない。

タタタタタタ…

遠くで何かが走る音が聞こえる。

ま、オレに何か厄介ごとが降りかからない限りどうでも良いが。

タッタッタッタッタ…

少し、近づいてないか？

いや…でもまた野生ポケモンだろう

「なあ、ケイ助」

『…足音の重さは、この森にいる大きさのポケモンじゃない』

「なっ…」

まさか…人間か？

それとも縄張りを広げようとやってきた大型の…

いや、あんなに俊敏に動けるはずがない。

それに、心なしか地面の震動が殆ど無い気がする。
どこを走っているんだ…?!

タタタタタタッ

「うわあああああッ」

『シュン、あっち!』

ケイ助が示した方向に思い切り石を投げつけてみた。

石は異端者の腕力で投げたモノだから勢いよく飛び、茂みにモノが落下した音を聞くに、当たったようだ。

おそろおそろの何かが落ちた場所へ足を運ぶと、そこにいたのは

「痛いよお…」

うずくまって顔をさする、若葉色の少女だった。

「お・・・おい、その・・・大丈夫・・・か？」

しまった!

人間とへタに関わるだなんて…

「ん？」

だが振り向いた彼女を見てオレは直感的に悟った。

こいつも“異端者”だ。

黄色い、キモリのぎよろりとした大きな目。

キモリのしっぽをかたどったようなポニーテイル。

そして、口の端から覗く鋭い八重歯。

「お前は…」

「…キモリ」

オレの驚愕したように見えた表情を変に誤解したのか、少女は先ほどとは打って変わって唸るように言った。

「おつ、オレはアチャモだ！お前と同じ！びっくりして石を投げたのは悪かった！…なあ」

「貴方、棄てられたの？」

「お前もそうだろうよ」

「なら…一緒に行ってくれる？」

「は？」

「私は学びたいの。知識、教養が欲しい」

「ほう？」

「でも棄てられてしまったならその可能性は潰えてしまうの」

「そんなこと分かってる」

「でも、どこかの地下にはそんな不運な異端者達の為の教育施設がある大がかりな組織があるみたいなの。属している同胞はたくさんいて、誰か一人に会えばそこにに入れてもらえるわ。ねえ、いきましよう？確かに行き当たりばったりで運試しだけれど、何もしないよりはいいはず…」

彼女の懇願するような眼差しにはあてられてしまう。

「私、一人旅は辛いつてわかったの…お願い…」

彼女は一人で旅をしながら何を感じてきたのだろうか。

「…っ」

「ねえ…」

「…お前は、どう思う？」

『行きたければ行けばいい。オレはどっちでもいいぜ？留まるなら留まれよ』

「・・・」

「お前、名前は？」

「守木直斬もりき ひたぎ…貴方は？」

「炎田蹴えいだ シュンキ嬉だ！行き当たりばったりの運試しの旅、お前と同行してやるぜ」

A t u r n i n g p o i n t (後書き)

つてなわけで旅が始まります。

次あたりミズゴロウ来るかな

ちなみにケイ助＝鶏助（にわとりはケイとも読む）です！

ポケモン視点の第一話（前書き）

要はネタがないって事なのよね…

RSE持っていないし…

ってなわけで、視点はアチャモです。

ポケモン視点の第一話

蹴嬉の傍らで寝る俺を起こしたのは何かの足音。

地面に耳を当てても聞こえづらいということは確実に地に足を付けて走っているわけではないだろう。

やっと気づいて動揺する蹴嬉は小動物のようだ。

俺の推測通りであれば木。

木の幹と“垂直”に走っている。

「なあ、ケイ助」

『…足音の重さは、この森にいる大きさのポケモンじゃない』

「なっ…」

例えばキモリ。

彼等はカベを走ることが可能な種族だ。

だが足音から推測する体重は人間のソレ。

たとえキモリの異端者だろうと、ニンゲンの体重を足の裏一点にま

とめて走り抜けるのは難しい。

だとすればコイツ、どんな速度で走っているんだ…？

『俄然、興味がわいてきた』

だが蹴嬉の同様ぶりはさすがにアレだ。

興味本位で落としてみるか。

少しでもなにかきっかけがあれば確実に木からは落ちるだろう。

『シュン、あっち！』

本当に石を投げやがったぞ、こいつ。

まあいい。

俺の安眠を妨害したヤツのツラを拝ませてもらおうか。

――――――――――

黄色い、キモリのぎよろりとした大きな目。

キモリのしっぽをかたどったようなポニーテイル。

そして、口の端から覗く鋭い八重歯。

あ、やっぱり。

さすがに女とは思わなかったけれど。

「おつ、オレはアチャモだ！お前と同じ！びっくりして石を投げたのは悪かった！…なあ」

「貴方、棄てられたの？」

ずいぶんとざっくりと聞いてくる女だな。

「お前もそうだろうよ」

納得。

「なら…一緒に行ってくれる？」

「は？」

「私は学びたいの。知識、教養が欲しい」

最近まれに見る知識欲にあふれたヤツだな。

「でも棄てられてしまったならその可能性は潰えてしまうの」

「そんなこと分かってる」

「でも、どこかの地下にはそんな不運な異端者達の為の教育施設がある大がかりな組織があるみたいなの。属している同胞はたくさんいて、誰か一人に会えばそこに入れてもらえるわ。ねえ、いきましよう？確かに行き当たりばったりで運試しだけれど、何もしないよりはいいはず…」

は？

…オイ、まさか

「私、一人旅は辛いつてわかったの…お願い…」

コイツ…

「ねえ…」

「…お前は、どう思う？」

『行きたければ行けばいい。オレはどっちでもいいぜ？留まるなら留まれよ』

わかつちゃあいたが、もうどうにでもなれ。

「・・・」

「お前、名前は？」

「もりき ヒタギ守木直斬…貴方は？」

「炎田蹴嬉だ！行き当たりばったりの運試しの旅、お前と同行してやるぜ」

「楽な旅にはならないぜ…？」
「まあ、もつかまわねえよ」

「お前がお前の意志で世間と向き合つていくな。」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6079y/>

とある人外達の奮闘記～ハウエン編～

2011年12月1日21時58分発行